

知立公園花しょうぶまつりを支える人々

初夏を告げる花々に 込められた温かな思い

毎年15万人余りが足を運ぶ、知立公園花しょうぶまつり。期間中は茶会や知立のからくり人形実演もあり、会場は大いに盛り上がりがあります。毎年、優美に咲いて来場者の目を楽ませる花しょうぶは、地域の有志団体が手塩にかけて育てています。

夏の訪れを感じさせる花の祭典 由緒は明治神宮からの贈り物

国内では江戸時代頃から栽培されている花しょうぶ。多年草で、初夏に見頃を迎えます。まっすぐ天へ向かって伸びる葉と、紫に色づいた花がよく知られますが、白や淡い紅色の花を咲かせる品種もあります。

毎年6月に知立公園で催される、知立公園花しょうぶまつり。50〜60品種約3万本が園内に咲き誇り、その優美な姿を見ようと毎年約15万人が来場します。

祭りが開催された年は判明していませんが、昭和30年に明治神宮から知立神社へと下賜された花しょうぶがきっかけと推測されています。その後、知立神社が管轄する知立公園で大切に育てられ、いつしか神社が中心となって祭りを始めます。回数

を重ねるにつれ規模は大きくなり、品種や本数も増えていきました。現在では毎年5月下旬〜6月下旬まで約1カ月にわたって盛大に開催。品種によって見頃が異なるため、来場者の中には開催期間に何度も足を運ぶ人もいます。

有志団体が愛情を注ぎ 来場者を魅了する花を育成

花を手塩にかけて育てているのが、知立公園花菖蒲育成会。祭りの主催は知立市観光協会ですが、花の管理は育成会が一手に担っています。

育成会が立ち上げられたのは平成3年頃。前身となる団体に平成元年から所属して活動が続ける人物が、知立公園花菖蒲育成会の永谷勇会長です。「花しょうぶはデリケートです。開花前に除草作業を終え、開花中は咲いている場所へ足を踏み入れ

ないよう気をつけています」と話します。現在40人が所属する育成会では、毎年冬から作業を開始。祭りに合わせて開花するよう、丁寧に肥料を撒いていき、春になると除草作業に取り掛かります。今年の4月は暑い日が続いたため、例年に比べて雑草の伸びが早く、作業には大きな労力を使いました。

花が咲いてからも育成会の作業は続きます。毎年、花しょうぶは2〜3回咲くため、次々と枯れ花が生まれます。美しい景観を保つため、枯れ花をハサミで取り除き、次の花が咲きやすいように手入れをしています。祭りが終了した6月下旬に行うのが株分け。寿命が5〜6年とされる花しょうぶの株は、イモのように土の中でいくつも枝分かれしており、その中の一株から花を咲かせます。一



蒸し暑い日が続く梅雨の時期も育成作業は実施。美しい花を咲かせる姿を想像し、たくさんの愛情を注いで育てられます

毎年6月に行う株分けの様子。作業日には約30人の会員が集まり、協力して作業が進められます

information

知立公園花しょうぶまつり 5月25日[金]〜6月20日[水]

場所／知立公園(知立神社外苑、知立市西町神田12)
料金／入場無料
問い合わせ／0566-83-1111
(知立市観光協会・知立市役所経済課内)

催し一部予定

茶会 5月25日[金]〜6月20日[水]

時間／10:00〜16:00
会場／茶室「池鯉鮒庵(ちりゆうあん)」など

大茶会 6月3日[日]・6月17日[日]

時間／10:00〜16:00
会場／茶室「池鯉鮒庵」など

知立公園花しょうぶを写す会 6月7日[木]

時間／10:00〜12:00
会場／知立公園花しょうぶ園

知立からくり人形実演 6月10日[日]

時間／13:00〜13:30
会場／知立神社(洋間)

会場のご来場をお待ちしています!



来場者に知立の風土や歴史文化を案内する、知立市観光ガイドボランティアの会の皆さん。紫の法被が目印で、祭り期間中は知立神社境内ガイドボランティアデパートに常駐しています

部を掘り起こし、まだ咲かせていない株を選定して丁寧に洗った後に、子株にして植え直します。すると翌年の初夏に半数以上が花を咲かせ、植え直してから3年目に最も美しい花を咲かせるといいます。

育成は通年での作業が必要となり、決して容易ではありません。それでもボランティアで活動する理由は、来場者にきれいな花を見てほしいという温かな思い。「私たちが愛情を注いだ花しょうぶをたくさんの方に見てほしい。その思いがメンバーの原動力となっています」と永谷会長は目を細めます。



紫や青、白、ピンクといった多彩な色の花をつける花しょうぶ。品種は数千種類もあるとされています

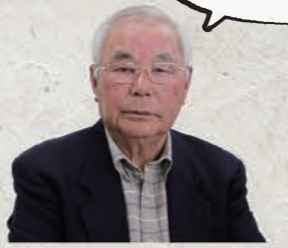
地域の伝統や文化に触れる 祭りを盛り上げる多彩な催し

知立公園は知立神社の境内を挟んで、西公園と東公園に分かれています。品種や本数はほぼ同じですが、西公園には売店や茶室があるため、多くの人でにぎわいます。一方、東公園は心安らぐ静かな空間。来場者は両公園を行き来して、異なる雰囲気を楽しみます。

6月7日(木)には「知立公園花しょうぶを写す会」を実施。市の広報大使であるミスかきつばた4人が着物姿で公園を訪れ、撮影会が開かれます。一面に咲いた花しょうぶとミスかきつばたを撮影しようと、多くのカメラ愛好家が訪れます。

知立からくり人形実演は6月10日(日)に開催。知立まつりの本祭でも披露される知立のからくりは、浄瑠璃に合わせて糸で操り、物語を演じます。一体の人形に十数本の糸を用いて操るためゼンマイ型より扱いが難しく、複数のからくり人形を登場

公園内をのんびり散策してみてください



知立公園花菖蒲育成会 会長
永谷勇さん
来場者が楽しそうに花を眺める姿を目にするだけで、活動の苦労がむくわれると話します

させるため人手が必要。平成28年12月には「知立の山車からくり」としてユネスコ無形文化遺産に登録されるほど珍しいものです。知立まつりでは山車の上で上演されますが、花しょうぶ祭りでは知立神社の洋間で披露。近距離で観覧できます。「祭り期間中は多彩な催しがあるので、お目当てのものを事前に調べて来ていただければ、より楽しめますよ」と永谷会長は笑顔を見せます。

期間中は宝物展や写真展、からくり人形展が知立神社の社務所内で行われ、会場には知立市観光ガイドボランティアの会も常駐。祭りの歴史や花について丁寧に解説しています。「花しょうぶを写真に収めるなら、朝露に濡れた早朝がいいですよ」と永谷会長。祭り期間中は日没から21時までのライトアップも実施しています。時間帯、時期、天候で変化する花の表情を楽しんでみてはいかがでしょうか。

今年も「知立公園花しょうぶを写す会」には、ミスかきつばたの皆さんが参加します。優美な1枚をカメラに収めようと多くのカメラ愛好家が心待ちにしています